

平面部門 審査評

審査員 小泉 広明、綾田 勝義

総 評

昨年より出品点数が減ったのは残念でしたが、力作や意欲作は間違いなくあり、その中から特に目についた作品が賞に選ばれました。平面部門においては、さまざまな技法で出品されているので観ることを楽しめる展覧会になりました。 《小泉》

甲賀市展賞 『トスカーナの娘』 大原 健

背景の黒がとても美しく、女性の表情にも興味を惹かれる作品です。一見、細密に見えながら輪郭に微妙なボカシを入れ背景との距離を出せたのが良かったです。 《小泉》

甲賀市議会議長賞 『香港』 河合 勇輝

油彩画の力強い黒のタッチの垂直の構成画面で、香港の裏町の通りであろうか、町の行き場のない感情を身に受けて、この垂直の上下のタッチの中に進らせている。裏通りの臭いまで感じとれる秀作である。 《綾田》

甲賀市教育委員会教育長賞 『morning dew』 はまうらあつこ

画面の隅々までしっかり描けており素晴らしい作品です。オーソドックスな補色の組み合わせですが、『魅せ方』が上手いなと感じました。一つだけ言わせてもらえるならば水滴は減らしても良いので空の色や周りの景色が水滴に映り込んだら面白いのかなと思いました。 《小泉》

中日新聞社賞 『冬枯れ』 堤 智恵美

水墨の墨の濃淡で冬枯れの沼地の風景を丹念に描き込まれた作品である。冬の草枯れした寒々とした風景であるにも関わらず、作者の表現に対応する真摯な熱意を感じられる。左上の空間に冬空の実感があるが熱量のある意欲作である。 《綾田》

朝日新聞社賞 『落羽松の森』 関谷 勇

遠くの木の詳細な枝まで正確に描けておりまた手前の落ち葉もたくさんの色を使い、丁寧な仕事をされているなと感じました。やや逆光気味にできる木の陰が季節をうまく表現できたと思います。 《小泉》

佳 作 『Boys. 藤と康』

守田 淳子

作者のお年から察して2人のお孫さんであろうか。夕日の中でボール遊びをしている光景をシンプルであるが影を伸ばした大胆な構図となっている。地面に映る夕日の黄金色の温かみに作者の慈愛を感じることができる。 《綾田》

佳 作 『早春』

近藤 睦子

空に伸びる枝が非常にシャープに描いており、手前の幹との対比で緊張感のある作品に仕上がりました。白黒のコントラストも美しく良い作品です。 《小泉》

佳 作 『槍ヶ岳をながめて』

坂上 秀機

まず最初に目を惹いたのは色の美しさでした。素直な色でありながら組み合わせ方に嫌味がなく、きれいな作品に仕上がったと思います。山の描き方も筆使いが上手く見応えのある作品です。 《小泉》

佳 作 『混沌とした店先』

松浦 暁子

題名にあるように店先に並べられた仮面をモチーフに「混沌とした」とあるが、非常に構築された緊張感ある画面構成を成功させている。更にウインドウを入れることで画面空間の奥行きを表現できた。 《綾田》

佳 作 『秋容』

古谷 節子

紙の継ぎ足しは気になりますが、よく描き込まれた作品でしたので選ばれました。遠景と近景の紅葉もしっかりと描き分けられているのが良かったです。次回はエスキースをしっかり作り、さらに佳い作品を目指してください。 《小泉》

奨励賞（甲賀ロータリークラブ賞） 『水』

李 美棋

とても大胆な構図で目を引く作品となった。若い作者ならではの着目点が面白く、手前のペットボトルに水や足の描写、背景の砂丘にシュールな超現実を感じさせる秀作である。

《綾田》

工芸・立体部門 審査評

審査員 木村 隆、平井 恵子、廣田 千恵

総 評

様々な表現の仕方があり、出品者の熱意が感じられました。工夫されるとさらに作品の質が上がるものもあり、これからが楽しみです。色・形・大きさ、それぞれに意味があるので考えながら進めると良いです。 《木村》

前回よりも出品数が大幅に増えたことを嬉しく思います。幅広い年齢の方々のエネルギーな作品を見せていただき、見応えのある展覧会になりました。今後も“オンリーワン”の意欲的な創作作品の出品を期待しています。 《平井》

昨年よりも出品点数がずいぶん増え意欲的な大きな作品も増え、全体的に活気を感じ嬉しく思いました。更に追及され、来年も挑戦されることを期待しています。 《廣田》

甲賀市展賞 『草木染手織り紬着物「春待ち」』 青木 三佐子

審査員一同、絶賛の秀作です。草木染めの萌黄色のグラデーションの中に淡いピンクの柔らかいライン、そこに緋の花びらが織り込まれ見ていて気持ちや和らぐ作品です。今後も素敵な着物の出品を期待しています。 《平井》

甲賀市議会議長賞 『海浜画大皿』 大久保 樹

ひときわ大きさに目立ちました。青の色調もうまく出していて浜の外まで想像させる作品です。砂の感じもよいです。平たい焼き物はむずかしいのですが、うまく焼いています。 《木村》

甲賀市教育委員会教育長賞 『生きろ!!』 土山 道夫

生きろという題名から、臓器をも連想させる作品です。迫力ある大きさ、和紙の色合いも良いと思います。上から樹脂をかけているのも効果的で他にはない技法であり、継続して創っていただきたいです。 《廣田》

読売新聞社賞 『ころころ』 望月 富美子

ざくろをモチーフにした染の作品で、藍色のグラデーションで全体をうまくまとめられています。ただ題名が作品とマッチしていないのが残念に思います。題名も大切な作品の一部ですのでよくお考えいただければと思います。 《平井》

京都新聞賞 『「窓」 歌会始 - 高木典子さん（84）の歌に寄せて。』 野口 幸子

左画面に掛けた絵と同じ様に窓から外を眺める構図です。そのストーリー性が面白く興味を惹かれます。見える景色の違い、人物にさす光の表現方法など好感が持てます。 《廣田》

佳 作 『波濤（漆芸線象嵌）』 林 節子

構図の波は大きさの大小・方向の違いなど工夫されていて良いと思います。最後に蒔か
れている紛（ふん）の処理が気にかかります。蒔かないか、上から漆を塗り固められるの
が良いと思います。 《廣田》

佳 作 『弥勒如来坐像』 坂上 隆史

細かいところまでよく切り込んでおり、全体に良い雰囲気を出しております。灯りを入
れる部分はもう少し見えにくくする工夫が良いと思います。 《木村》

佳 作 『塔』 鎌田 和容

たがいちがい端を出しながらの筒状の作品ですが形として面白いし工夫されてます。
色調も統一感がありよく考えられてます。 《木村》

佳 作 『手織り 溪の紅葉』 田村 信子

様々な糸を使い、流し織りの技法で、溪谷の紅葉を美しく表現されています。額に入れ
ずに展示された方がより良く作品が見えるのではないのでしょうか？ 今後お考え下さい。
《平井》

佳 作 『かぐや姫』 森井 久次

ライトを点けると、竹細工から現代風のかぐや姫が現れます。古典的な技法と現代的ア
ニメのデザインのコンビネーションがとてもおもしろく感じました。 《平井》

佳 作 『切り絵あかり エナガ』 原田 和泉

あかりをつけると、切り絵の鳥、木の枝葉が美しくスクリーンのように浮かびともされ、
心が和む作品です。クラフトテープで形づくられたところも好感がもてます。紙の温・湿
度での伸縮を考えられたことでしょうか、側面の紙の処理が気になります 《廣田》

奨励賞（（公社）水口青年会議所賞） 『水面華』 江島 夏姫

色調がまず目につきました。青ガラスの濃淡がよく出てます。花びらの縁の線の処理を
きっちりするとさらによくなりそうです。 《木村》

書部門 審査評

審査員 佐々木 宏遠、村崎 萬徑

総 評

若い人の出品も有ると聞きます。今後の書展の発展を考える上で大変大事なことと思います。老若男女、多くの方の出品により日本の書道文化の発展・継承を祈り願っています。

《佐々木》

甲賀市展賞 『王維詩』 墨田 睦水

横展開の七行作品。文字幅の取り方で豊かな作と成った。四行目中央の行に字幅の広い文字があり大変効果的です。墨継ぎをした文字の墨量もゆとりがあり、深く格調の高い作となった。 《佐々木》

甲賀市議会議長賞 『森羅万象』 太田 鮎美

一気呵成に書作された迫力のある作。破筆が効果的に作品を盛り上げており、躍動感のある風韻に魅了されます。 《村崎》

甲賀市教育委員会教育長賞 『杜審言詩』 吉岡 白挺

ゆったりとした流れは墨量の豊かさからきていると思われ、明るく品格の高い作品です。文字の大小と筆脈の変化によって行間も美しい。墨を入れた文字は深く静かで周囲が明るいのも良い。 《佐々木》

びわ湖放送株式会社賞 『李白詩』 村田 知晏

線の素朴さ、深く強い響きを感じます。行間の流れは明るく美しい。文字の大小・長短の変化も自然で無理が無い。潤渴の変化は微妙であるが、中々味があり効果的です。

《佐々木》

毎日新聞社賞 『序破急』 臼田 雅湖

2×8尺の大作に三文字篆書を堂々と書き上げた書作態度に敬意を表します。線質・墨量・落款等、いずれも変化富み、巧みに表現されています。 《村崎》

佳 作 『蘇東坡詩』 福島 白桜
ゆったり堂々と書けています。中央「巻」字が全体の中でよく響いています。全体的には墨は多めで堂々とした造形も大変よろしいです。 《佐々木》

佳 作 『區大相詩』 大林 晨生
全体的には明るくしっとりとした落ち着いた秀作です。一点一画を丁寧を書くことの大切さを示してくれています。横作品らしく字幅のある文字をもう少し生かせたら・・・と思います。 《佐々木》

佳 作 『郭廛詩』 岩田 恵子
縦の流れの美しい行草作品。円味のある運筆が温雅な風味を表現できていて楽しい。かすれ部分の運筆はもう少し楽にゆとりをもって書きましょう。 《佐々木》

佳 作 『清如玉壺氷』 伴 弘美
半切出品からも2点選びました。隸書一行書。線は太め堂々と書けていて好感が持てます。文字の大きさのバランスも良く仕上がっています。 《佐々木》

佳 作 『赤彦のうた』 木邑 匡良
仮名では最優秀作。申し分無し。静と動、潤と渴、変化の妙味、すべて整っています。来年も出合えることを楽しみにしています。《佐々木》

佳 作 『漢詩句』 笹尾 康
軽快な筆致で流麗な筆脈の二行書です。変化にとんだ書き振りは妙を得ており、動きのある作に仕上がっています。 《村崎》

佳 作 『羊の群』 山口 晴美
鍛錬された隸書の作。紙面構成がうまくできており余白の美しさが際立っています。隸書の筆法が絶妙で雅趣の感じられる線質が魅力です。 《村崎》

写真部門 審査評

審査員 大久保 勝利、西岡 千春

総 評

コロナ禍も多少緩和され、写真を巡る環にも日常が戻りつつあることを今回の出品作品を見て感じました。で点数も昨年より上回って、高校の部が増えてきたことはうれしく思います。審査は各ジャンルとも、独自色が回を重ねるごとに増して撮る人の考え方や狙いが明確に表現されています。中でも市展賞「平和への祈り」は作者の感動が伝わってきます。他の作品もすばらしく審査を悩ませ時間を忘れるほどでした。作者の鋭い感性によって一枚の写真が出来上がるわけで、感動を失ってしまえば写真撮る意味もなくなってしまいます。作者が目にした光景を動感し、写し込むかに尽きると思います。来季もまた、独自性のある作品に数多く出会えることを楽しみにしています。 《大久保》

甲賀市展賞 『平和への祈り』 前野 美恵子

コロナへの対応も変化する中、いろいろなお祭りも復活してきました。複雑な世の中、多くの人の祈りにこめた思いを感じます。アップとロングの組み合わせがテーマを生かしていると思います。《西岡》

甲賀市議会議長賞 『未来への思い』 中森 ますみ

田植えを終えた水田に新名神工事中の橋脚の写り込みを作品にしています。一見地味な写真に見られがちですが、ニュース的な感性は素晴らしい作画に仕上げました。

《大久保》

甲賀市教育委員会教育長賞 『カッター作業』 曾我 一彦

地元水口のかんぴょう。歌川広重の東海道五十三次、水口を描いた浮世絵にも描かれています。かんぴょうむき機から飛び出していくかんぴょうの動きに音を感じられて面白いと思います。永く続いてほしい伝統の風景です。 《西岡》

NHK 大津放送局賞 『夜明けの一時』 初田 嘉次

墨絵の様な画面の中で、枝垂れ桜が不気味さも思わせています。背景が霧で省略され、より早朝の効果が出ています。 《西岡》

産経新聞社賞 『笑顔美人』 西出 稔

良く見る作品ですが、一目瞭然、縁側で語りあう二人の笑顔は自然でほのぼのとした感

じを作品にした撮影者も素晴らしく、撮る人、撮られる人の声が弾んできそうです。

《大久保》

佳 作 『年輪の逞しさ』

森村 民子

爛漫の桜古木と若木に咲いた桜を2枚組にした作品は逞しさを上手く表現されています。

《大久保》

佳 作 『闇を払う大団扇』

森岡 治夫

お祭りの中で、煙と大団扇と人物だけで構成した画面。人物を左下におくことで団扇の動きを想像できる画面作りが良いと思います。 《西岡》

佳 作 『出会い』

綾部 リエ

ライトアップされた境内に敷き詰められた紅葉、レンズワーク、画面構成素晴らしい作品になっています。 《大久保》

佳 作 『“ワン” ダフル』

野口 泰子

2匹のワンちゃんが土手から花見、画面構成は申し分ない作品に仕上がっています。脇役に飼い主さんのマスク姿も今年で終わりたいものですね。 《大久保》

佳 作 『あなたは、何を撮りますか？』

植田 孝志

タイトルから、自問されているのでしょうか？面白い設定の作品になっています。斜めの壁の模様と微妙に傾いたモデルさんの姿が不思議な雰囲気をつくっています。 《西岡》

奨励賞（水口ライオンズクラブ賞） 『きみとの話』

石橋 美結子

通学の途中、夕日をバックに今日の出来事を話し合っているのでしょうか。学生らの日常が、自然に切り取られたほほえましい風景です。 《西岡》